

2022年度 第2四半期決算説明会

2022年11月7日

株式会社ツムラ

01

2022年度 第2四半期決算の概況

02

研究開発の方向性と直近の進捗

2022年度 第2四半期決算の概況

2022年11月7日

代表取締役社長CEO

加藤 照和

01

2022年度 第2四半期の決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

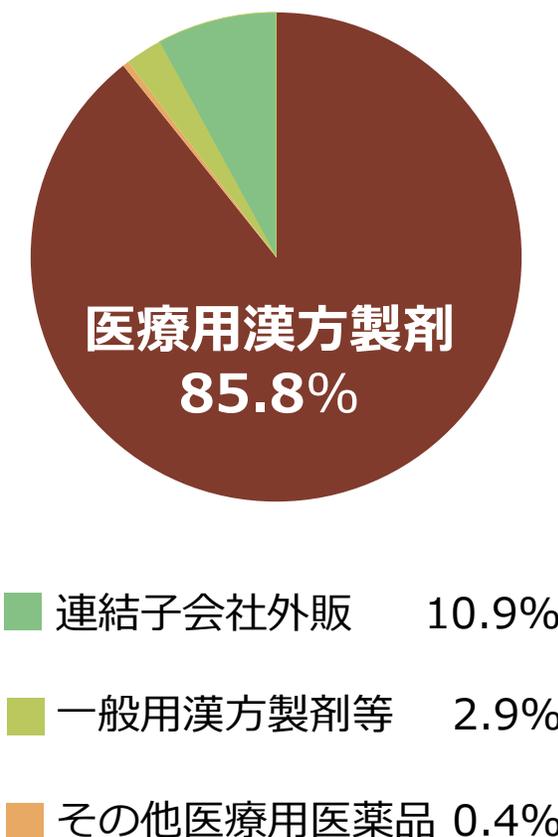
03

2022年度 業績予想

2022年度 第2四半期 決算概況

【百万円】	2022年度 2Q 修正計画 (8月3日発表)	2022年度 2Q実績	達成率	前年同期比	
				金額	増減率
売上高	68,900	70,107	101.8%	+6,690	+10.5%
国内事業	-	62,922	-	-	-
中国事業	-	7,184	-	-	-
営業利益	10,700	11,677	109.1%	△6	△0.1%
国内事業	-	11,765	-	-	-
中国事業	-	△87	-	-	-
経常利益	14,000	15,965	114.0%	+2,556	+19.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9,600	11,889	123.8%	+1,923	+19.3%
PL換算レート※ (円/元)		18.98	-	+2.32	-

売上高構成比率



売上高および各利益は修正計画を達成

売上高	70,107	百万円	達成率	+101.8%	前年同期比	+10.5%
------------	---------------	------------	------------	----------------	--------------	---------------

- 医療用漢方製剤（129処方）：60,191百万円 前年同期比 6.8%伸長
- 一般用漢方製剤等：2,003百万円 前年同期比 20.0%伸長
- 中国事業売上高：7,184百万円

営業利益	11,677	百万円	達成率	+109.1%	前年同期比	△0.1%
-------------	---------------	------------	------------	----------------	--------------	--------------

営業利益率	16.7	%	修正計画比	+1.2pt	前年同期比	△1.7pt
--------------	-------------	----------	--------------	---------------	--------------	---------------

- 原価率：50.3% 修正計画比 △0.1pt 前年同期比 +1.9pt 対前年：主にエネルギー費増加、中国外部販売増の影響
- 販管費率：33.0% 修正計画比 △1.1pt 前年同期比 △0.1pt 対前年：天津工場の本稼働に向けた経費増等を売上高増で吸収

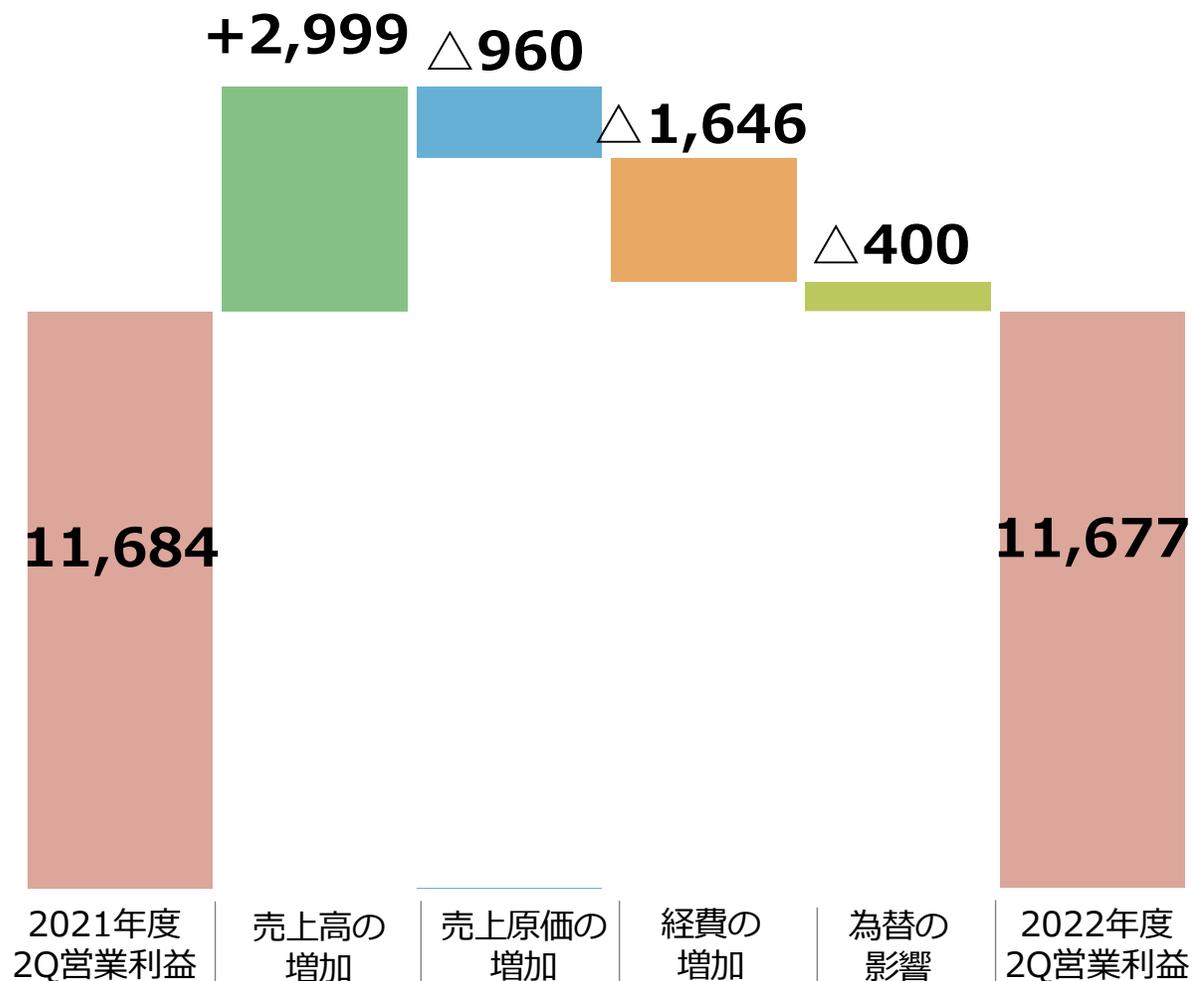
経常利益	15,965	百万円	達成率	+114.0%	前年同期比	+19.1%
-------------	---------------	------------	------------	----------------	--------------	---------------

- 海外子会社への貸付金等に係る為替差益：3,950百万円 前年同期比 +2,765百万円 為替（円安加速）の影響

親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,889	百万円	達成率	+123.8%	前年同期比	+19.3%
-----------------------------	---------------	------------	------------	----------------	--------------	---------------

営業利益の増減要因（前年同期比）

(百万円)



(百万円)

売上高の増加 +2,999百万円	
国内	+2,201
海外	+797
売上原価の増加 △960百万円	
生薬調達コスト（国内：未実現利益の減少）	+126
原資材費（国内：原料生薬以外の資材の高騰）	△170
加工費等（国内：主にエネルギー価格の高騰）	△274
外部販売（海外：原価率が高い中国事業の伸長）	△641
経費の増加 △1,646百万円	
減価償却費（主に天津工場の本稼働に向けた増加）	△449
広告宣伝費	△129
研究開発費	△103
販売促進費	△73
給与諸手当	+14
その他（主に活動量の増加、システム導入費用等）	△905
為替の影響 △400百万円	

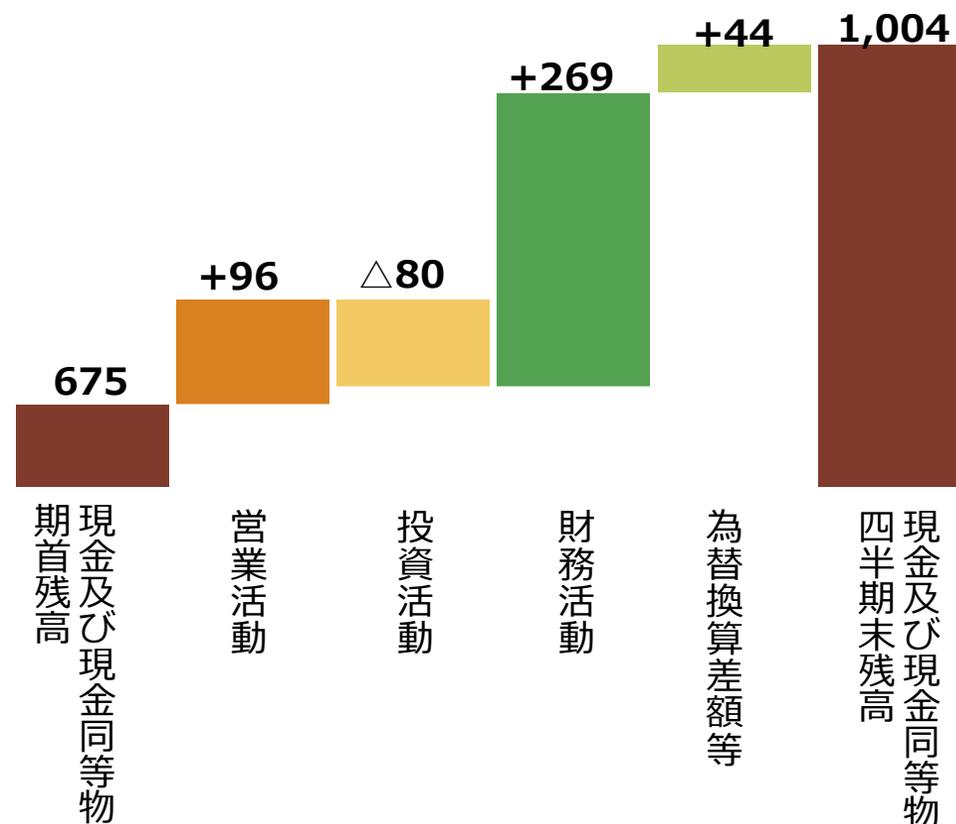
財政状態 および キャッシュ・フロー

(百万円)

社債発行 300億円 (2022年9月8日)

	2021年度 (2022.3)	2022年度 2Q	増減額
資産合計	350,981	402,930	51,948
流動資産	229,420	275,438	46,017
固定資産	121,561	127,492	5,931
負債合計	92,871	124,628	31,756
流動負債	45,875	47,754	1,879
固定負債	46,996	76,873	29,877
純資産合計	258,109	278,302	20,192
自己資本比率	68.3%	63.8%	△4.5pt

(億円)



	2021年度 (2022.3)	2022年度 2Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	92,751	100,764	8,012	7,470
商品及び製品	10,247	10,138	△109	408
仕掛品	13,614	13,139	△475	238
原材料及び貯蔵品	68,889	77,485	8,596	6,823

成長投資の資金の一部および既発債の償還資金として、社債による資金調達を実施

	第1回 無担保社債 (7年債)	第2回 無担保社債 (10年債)	第3回 無担保社債 (7年債)	第4回 無担保社債 (10年債)
発行総額	150億円	150億円	150億円	150億円
発行時期	2017年6月	2017年6月	2022年9月	2022年9月
償還期限	2024年5月	2027年6月	2029年9月	2032年9月

第3回,第4回 無担保社債の用途

既発債の償還

第1回無担保社債
償還資金の一部

成長投資

設備投資・DX投資

生産能力増強と自動化・DX化による生産性向上：約1,150億円

01

2022年度 第2四半期決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

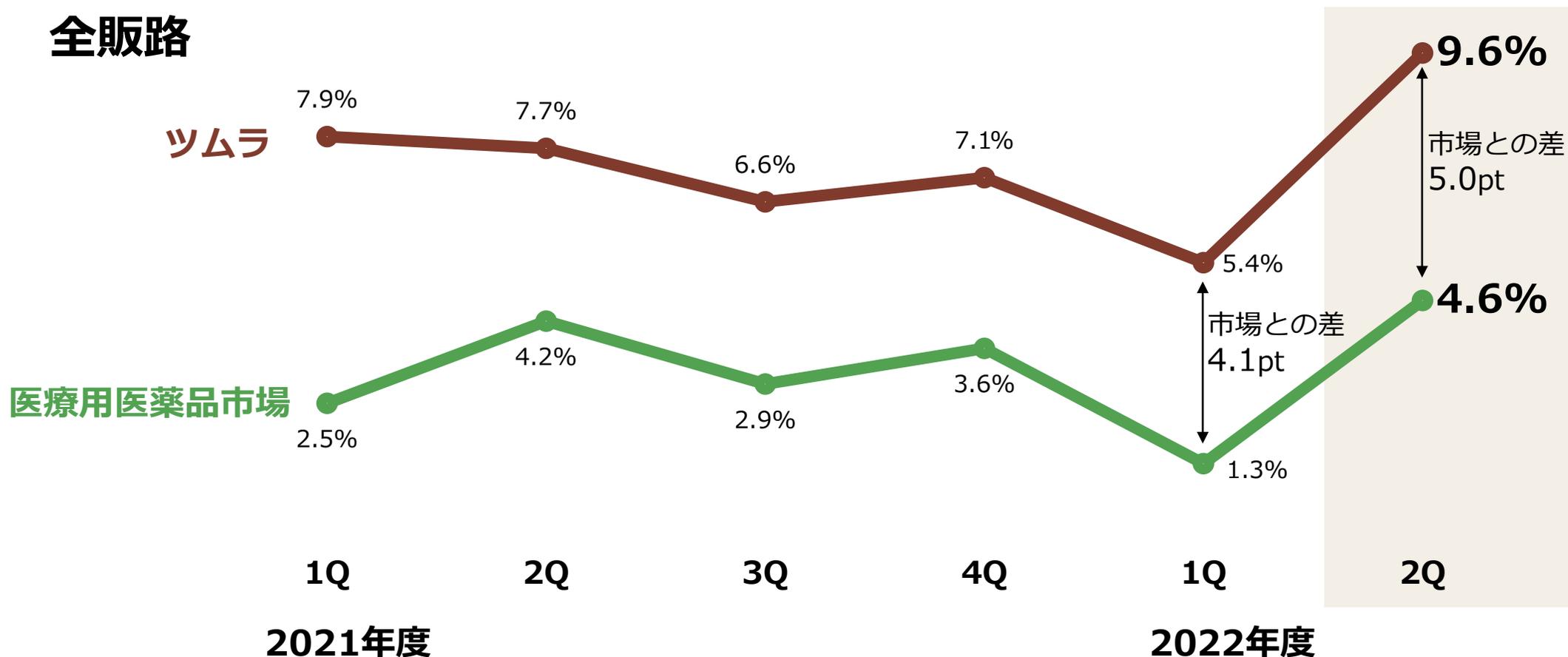
03

2022年度 業績予想

薬価ベースでは、9.6%の伸長（前年同期比）
市場との差が0.9pt拡大（1Q比）

（前年同期比・薬価ベース）

全販路

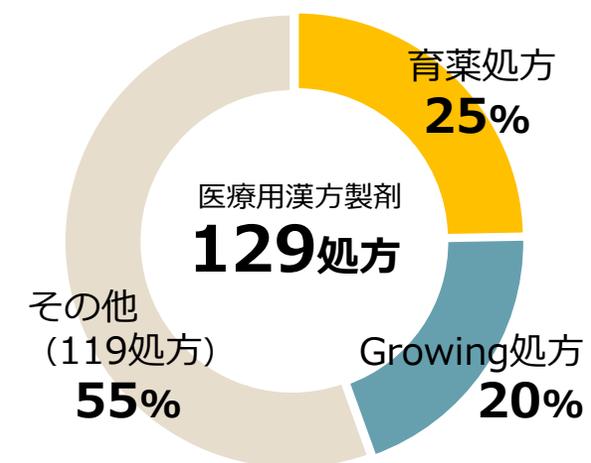


育薬処方・Growing処方 売上高

(百万円)

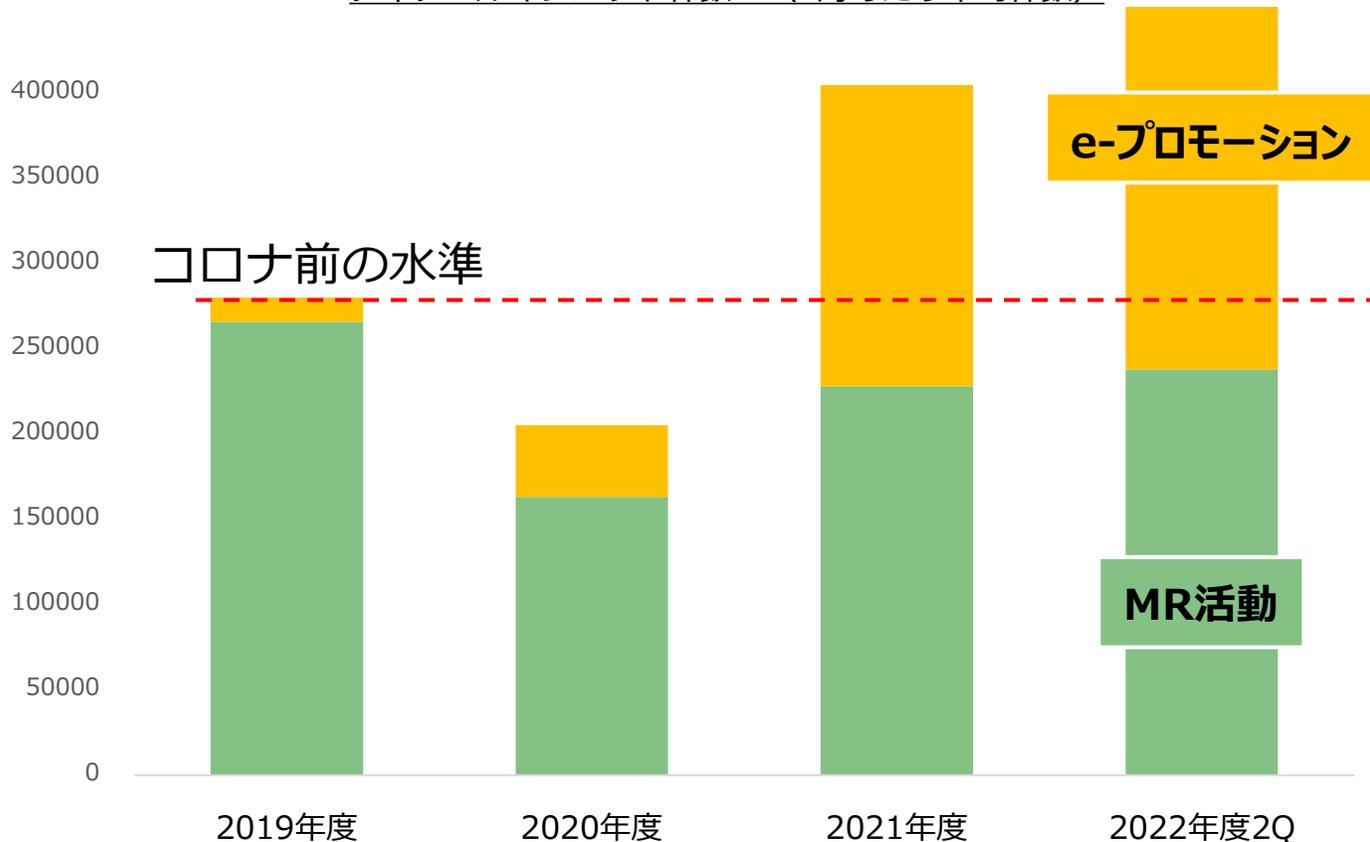
	売上 順位	製品No. / 処方名	2021年度2Q	2022年度2Q	前年同期比	
育薬 処方	1	100 大建中湯	4,790	4,927	+137	+2.9%
	3	54 抑肝散	3,720	3,775	+55	+1.5%
	4	43 六君子湯	3,557	3,698	+141	+4.0%
	8	107 牛車腎気丸	1,736	1,755	+18	+1.1%
	23	14 半夏瀉心湯	678	708	+30	+4.4%
育薬処方合計			14,482	14,865	+382	+2.6%
Growing 処方	2	41 補中益気湯	3,741	4,060	+319	+8.5%
	5	17 五苓散	2,680	3,198	+517	+19.3%
	7	24 加味逍遙散	2,415	2,583	+168	+7.0%
	16	108 人參養栄湯	961	1,034	+73	+7.6%
	17	137 加味帰脾湯	849	1,013	+164	+19.3%
Growing処方合計			10,647	11,890	+1,242	+11.7%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			31,247	33,435	+2,188	+7.0%
医療用漢方製剤129処方合計			56,377	60,191	+3,814	+6.8%

売上高構成比率



漢方情報の認知が向上し、新規処方医師数ならびに処方数を増やした医師数が拡大

ディテールインパクト件数※1（1月あたり平均件数）



出所：インテュージヘルスケア調査「Impact Track」

メディカルサイト会員へのメールマガジン配信



- Web講演会への参加者数が増加
- 動画の視聴が増加

✓ 新規に漢方薬を処方した医師数※2

約 6,000人※4

✓ 漢方薬の処方数が増加した医師数※3

約 20,000人※4

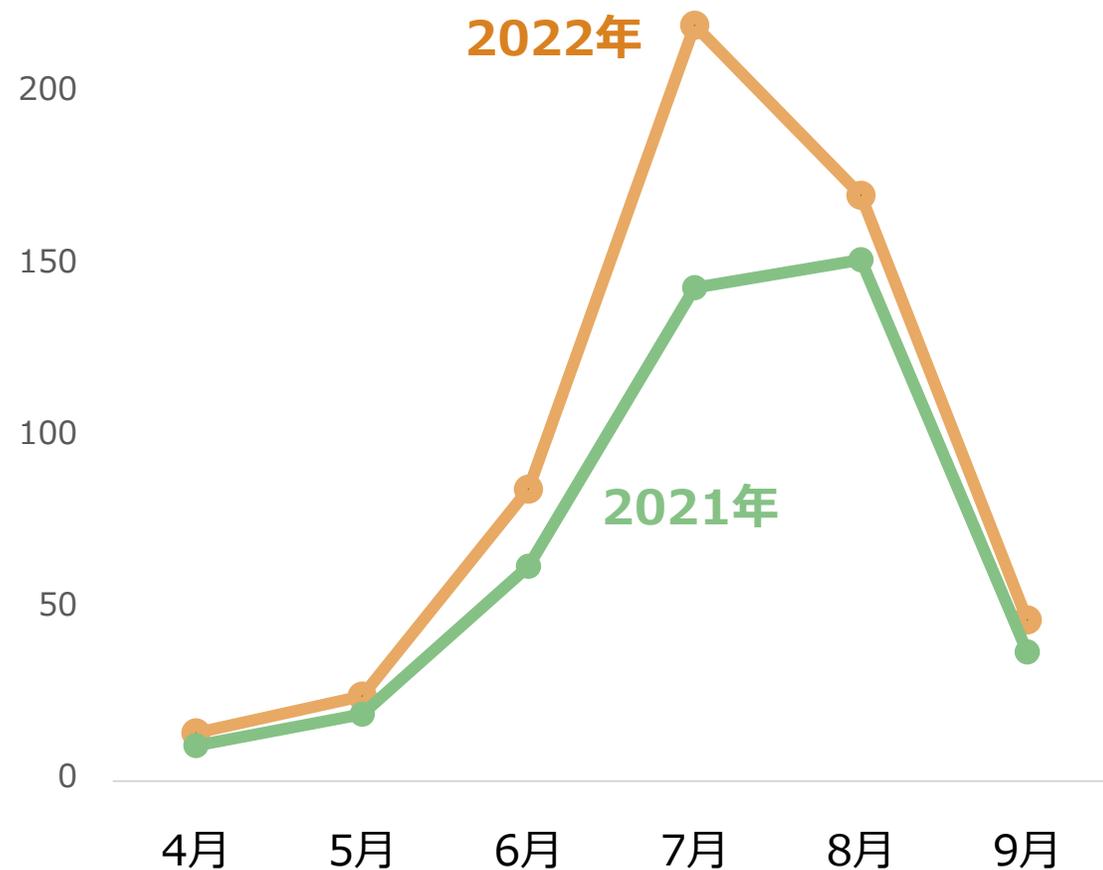
当社調べ

※1：ディテールインパクト件数：MR活動やインターネットなど各チャネルからの情報認知件数
 （MR活動：MRを介したディテール、オンライン面談、院内説明会など。 e-プロモーション：MRを介さないオンライン上の情報提供活動。）

※2：未処方医師が処方化したことを確認できた数
 ※3：既処方医師が処方数を増やしたことを確認できた数
 ※4：2022年4月1日を起算日として2022年9月30日までの増加数

清暑益気湯の売上高※

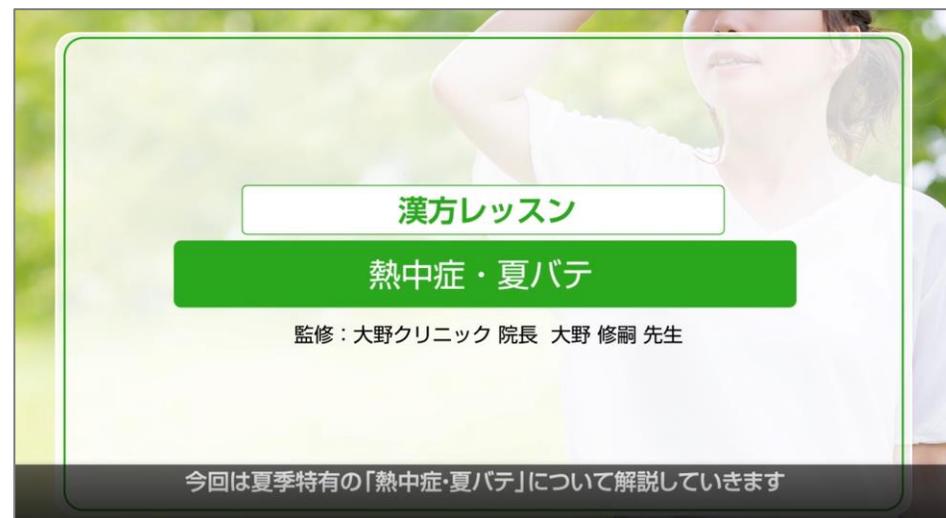
(百万円)



※ 当社実売（仕切価）データ

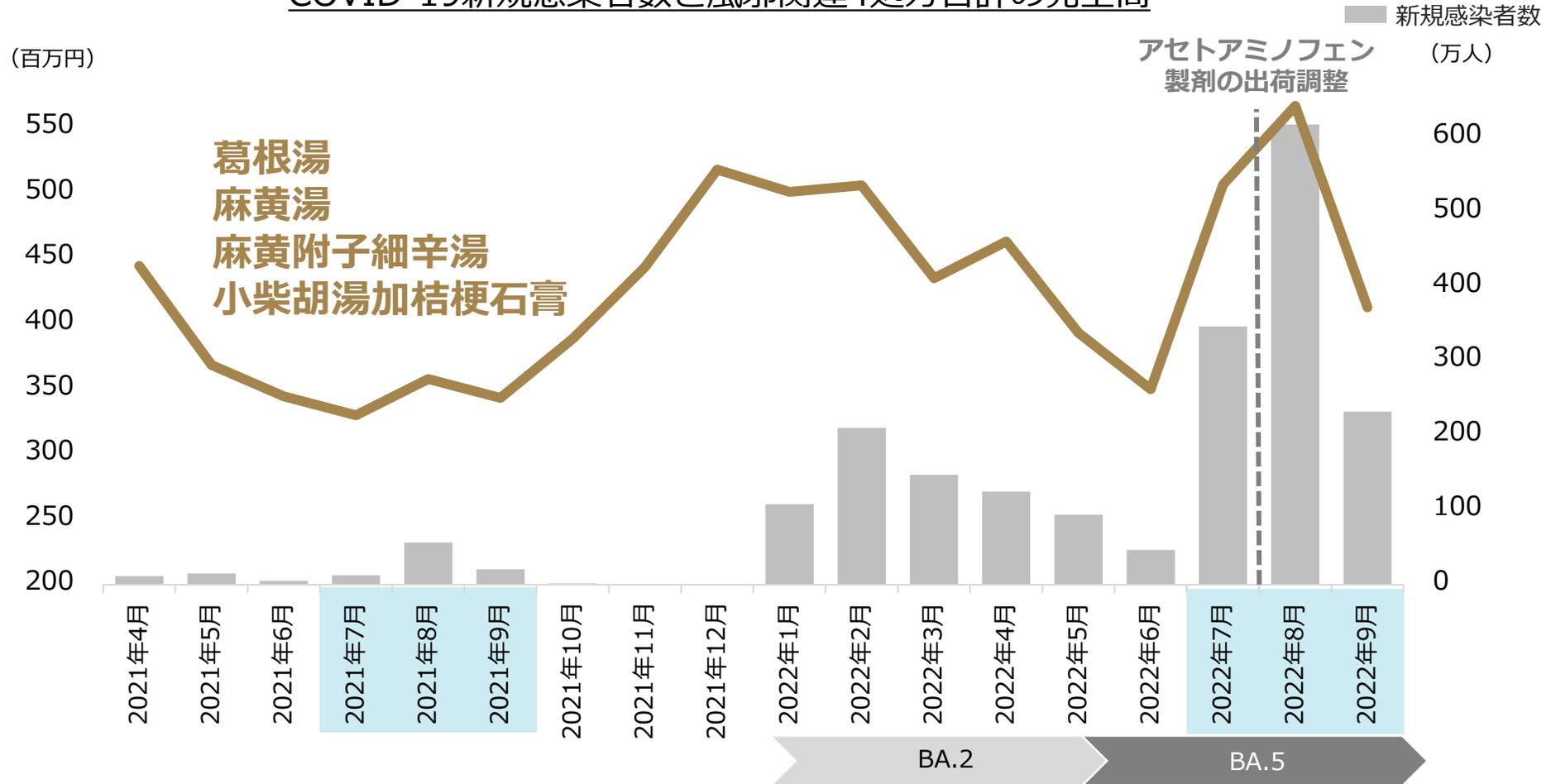
<メディカルサイト：動画ライブラリー（漢方レッスン）>

疾患・症状別の漢方処方・使い分け「熱中症・夏バテ」



アセトアミノフェン製剤の出荷調整により風邪関連処方の上高が伸長

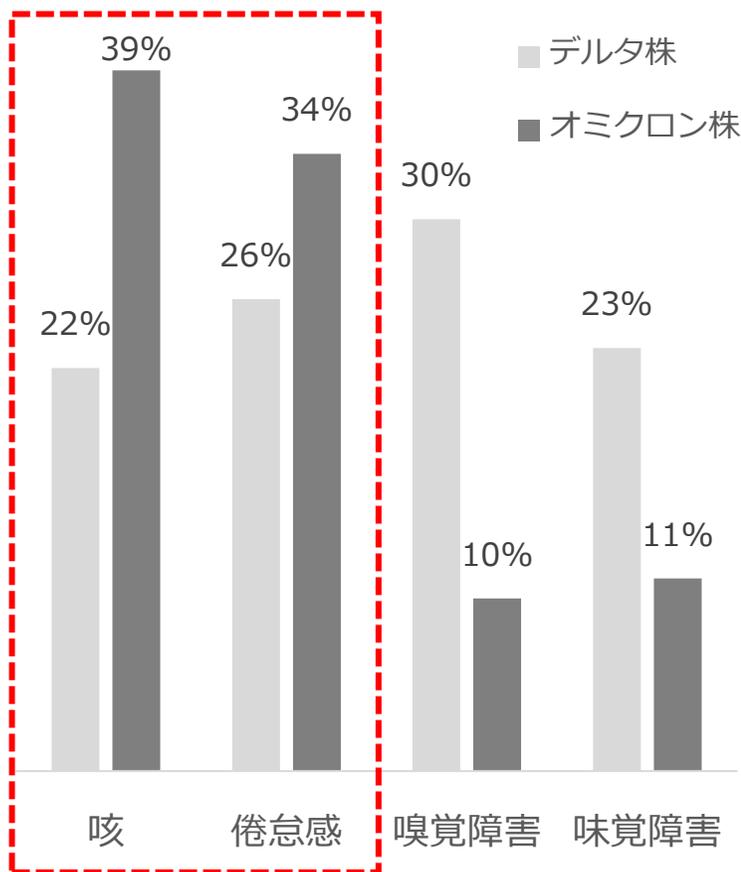
COVID-19新規感染者数と風邪関連4処方合計の売上高



棒グラフ：厚生労働省オープンデータ：新規陽性者数の推移（日別）より
 線グラフ：実売（仕切価：当社データ）

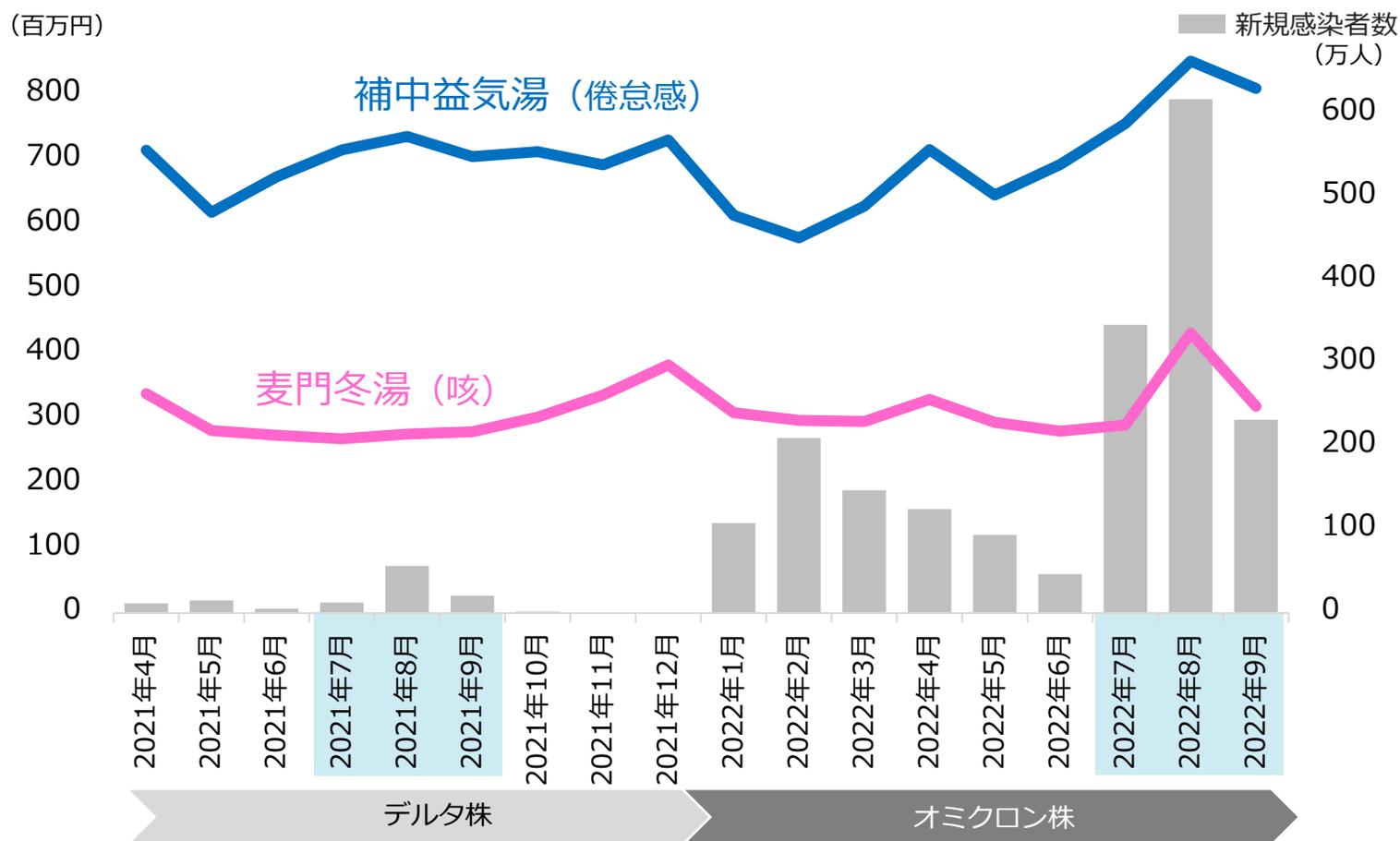
オミクロン株の感染者増加によりLong-COVID症状関連処方の上高が伸長

オミクロン株とデルタ株の症状の違い



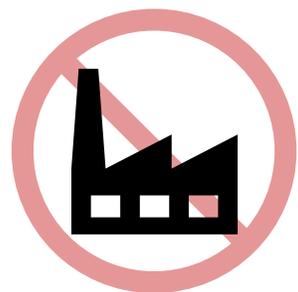
東京iDC後遺症タスクフォース
都立・公社病院「コロナ後遺症相談窓口」の相談データ分析より

COVID-19新規感染者数とLong-COVID関連処方の上高



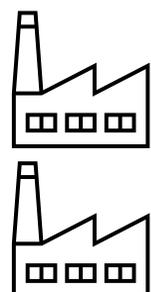
棒グラフ：厚生労働省オープンデータ：新規陽性者数の推移（日別）より
線グラフ：実売（仕切価：当社データ）

4月



上海ロックダウン

5月



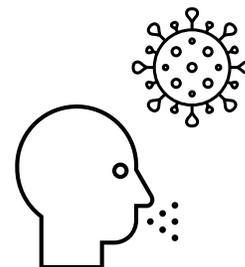
国内工場
代替生産

6月



猛暑

7月



COVID-19
第7波

8月

対応

- 季節性の処方、風邪関連処方の増産体制
- 増産のため生産計画変更

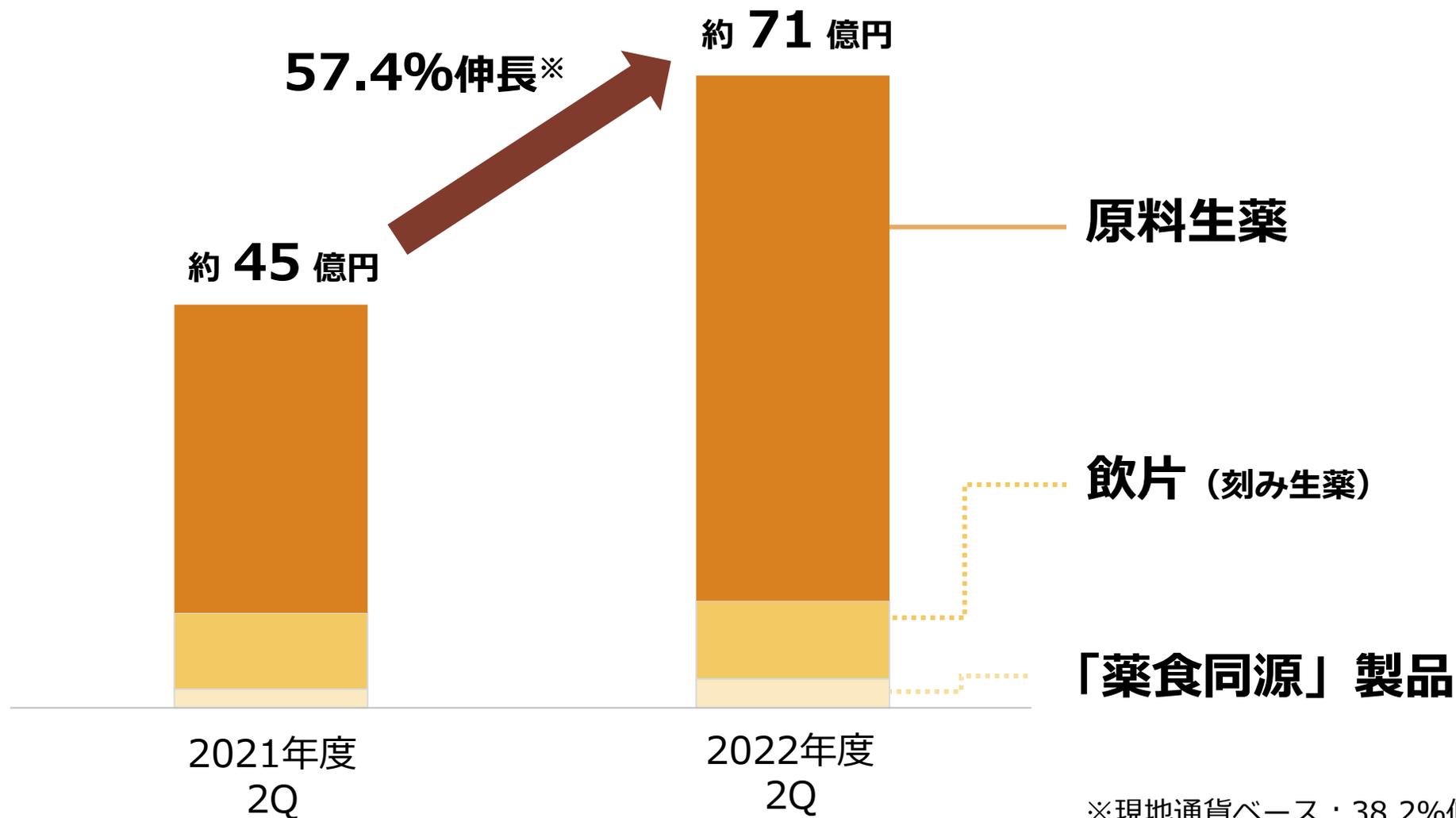
➔ **一部処方を限定出荷**

9月

今後の見通し

- Long-COVIDの患者様の増加により、風邪関連処方の需要が継続
- 季節性インフルエンザ流行、COVID-19再拡大による風邪関連処方の需要増加

生薬プラットフォーム：原料生薬販売の拡大により上期計画達成



01

2022年度 第1四半期決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

03

2022年度 業績予想

2022年度 業績予想（変更なし）

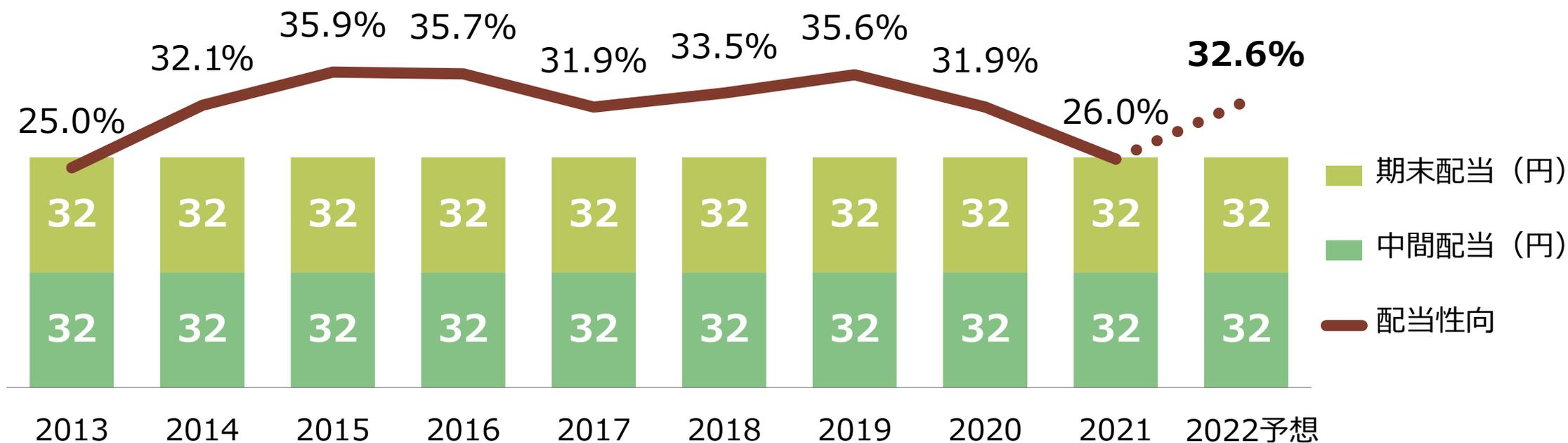
【百万円】	2021年度 実績	2022年度 予想	前年比	
			金額	伸長率
売上高	129,546	138,500	+8,953	+6.9%
国内事業	—	124,300	—	—
中国事業	—	14,200	—	—
営業利益	22,376	20,800	△1,576	△7.0%
国内事業	—	21,200	—	—
中国事業	—	△400	—	—
経常利益	25,904	21,200	△4,704	△18.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,836	15,000	△3,836	△20.4%

配当金 (1株あたり)	64 円	64 円
EPS	246.2 円	196.1 円
ROE	8.2 %	6.0 %

(注) 為替影響（営業外損益）については、為替相場の状況から、合理的に算定することが困難であるため、業績予想には織り込んでおりません。

方針

- 国内事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュフローの状況等を勘案し、安定配当を実施する



(注) 2022年度期末配当金・配当性向(予想)は、第87回定時株主総会による配当議案決議が前提の予想数値を記載

コーポレート・コミュニケーション室

I R 推進グループ

investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制の変更や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少したりした場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

研究開発の方向性と直近の進捗

2022年11月7日

執行役員 漢方研究開発本部長／国際開発本部担当

今田 明人

【高齢者領域】

- ・社会的、身体的、精神的等、より細分化したタイプ別フレイルに関する研究の実践
- ・軽度認知障害、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期等、ステージ別の認知症周辺症状に関する研究の実践
- ・うっ血性心不全、心腎連関を含めた循環器領域での本格的なエビデンス構築の実践

【がん領域】

- ・がんサバイバーシップのサポートに関する研究の実践
(社会的、身体的・精神的側面から就労支援の一助を担う)

【女性領域】

『女性のライフステージに寄り添った研究の実践』

01

当社における女性領域の取り組み（創業の原点） と外部環境変遷の確認

02

標準治療の「更なる」基盤構築 これまでの研究成果と研究パイプライン

03

新たな治療手段の提案（個別化医療への取り組み） 未病領域への挑戦

※留意事項

本説明には、医薬品等に関する情報が多々含まれておりますが、それらは宣伝や広告を目的とするものではありません。



津村重舎（ツムラの前身である津村順天堂の創業者）が、母方の実家・藤村家家伝の婦人薬に改良を加え
1893年（明治26年）に東京日本橋で婦人薬「中將湯」を発売

**女性の生涯にわたる健康に寄り添ったプレコンセプション（妊娠前）
ならびにコンセプション（妊娠後）ケアの一助を担っていきたい！**

※プレコンセプションケア：将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと

2015年

- 女性活躍推進法 成立

2021年

- 育児・介護休暇法
- 不妊予防支援パッケージ
- 「フェムテック」新語・流行語大賞ノミネート
- 骨太の方針2021「フェムテックの推進」記載

2022年

- 不妊治療の保険適用
- 骨太の方針2022策定
- セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 普及推進宣言：日本産科婦人科学会

◆人口減少対策

◆女性の就労支援対策

◆フェムテック機運の高まり

日本人女性の就労

1990年代：就業率「M字カーブ」20代後半から30代で低下し40代以降に再び上昇

2000年代：就業率「M字カーブ」ゆるやかに

2020年以降：正規雇用率「L字カーブ」20代後半がピークとなり、出産期以降低下 ➡ 継続就業率向上が必要

フェムテック市場は2025年までに約2兆円/年規模との予測

専門家相談/サポート



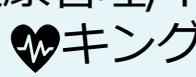
不安や悩みを相談したい

簡易検査キット

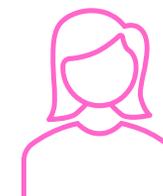


気軽に身体の状態を知りたい

健康管理/トラッキング



日々の体調を管理したい



医療支援



通院や診療の負担を軽減したい

その他



より優れた解決方法を試したい

【出所】「フェムテック | 新しい当たり前をつくり女性が働きやすい社会を」(経済産業省) <https://www.femtech-projects.jp/> を加工して当社作成

※フェムテック = Female + Technology

フェムテック (Femtech) とは、Female (女性) と Technology (技術) をかけ合わせた造語で、女性の健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービス

01

当社における女性領域の取り組み（創業の原点）
と外部環境変遷の確認

02

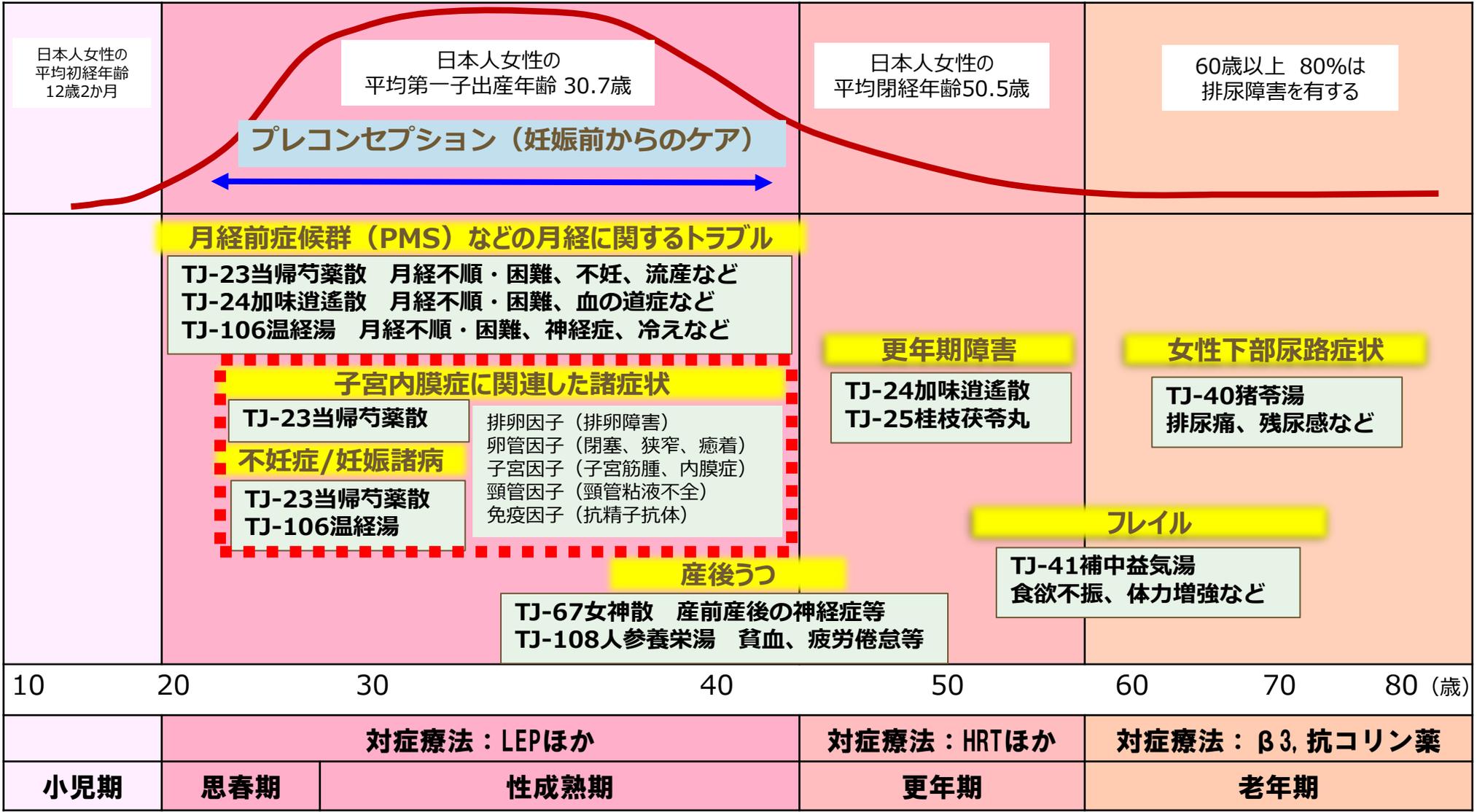
標準治療の「更なる」基盤構築
これまでの研究成果と研究パイプライン

03

新たな治療手段の提案（個別化医療への取り組み）
未病領域への挑戦

多い
↑
エストロゲンの分泌量
↓
少ない

起こりやすい
病態・疾患



「不育症（習慣性流産等）の女性の出生率に及ぼす漢方薬の効果」

目的：不育症（習慣性流産）患者の全体的な出生率に対する漢方薬の有用性を検討

対象：2005年1月から2018年8月までの間に不育症と診断された女性を抽出（5,517名）
2年後、4年後の出生率を解析（漢方使用率は29.9%：当帰芍薬散60%、その他40%）

	漢方服用 (1,651)	非漢方服用 (3,302)
2年後出生率	15.7 %	11.2 %
4年後出生率	22.6 %	17.8 %

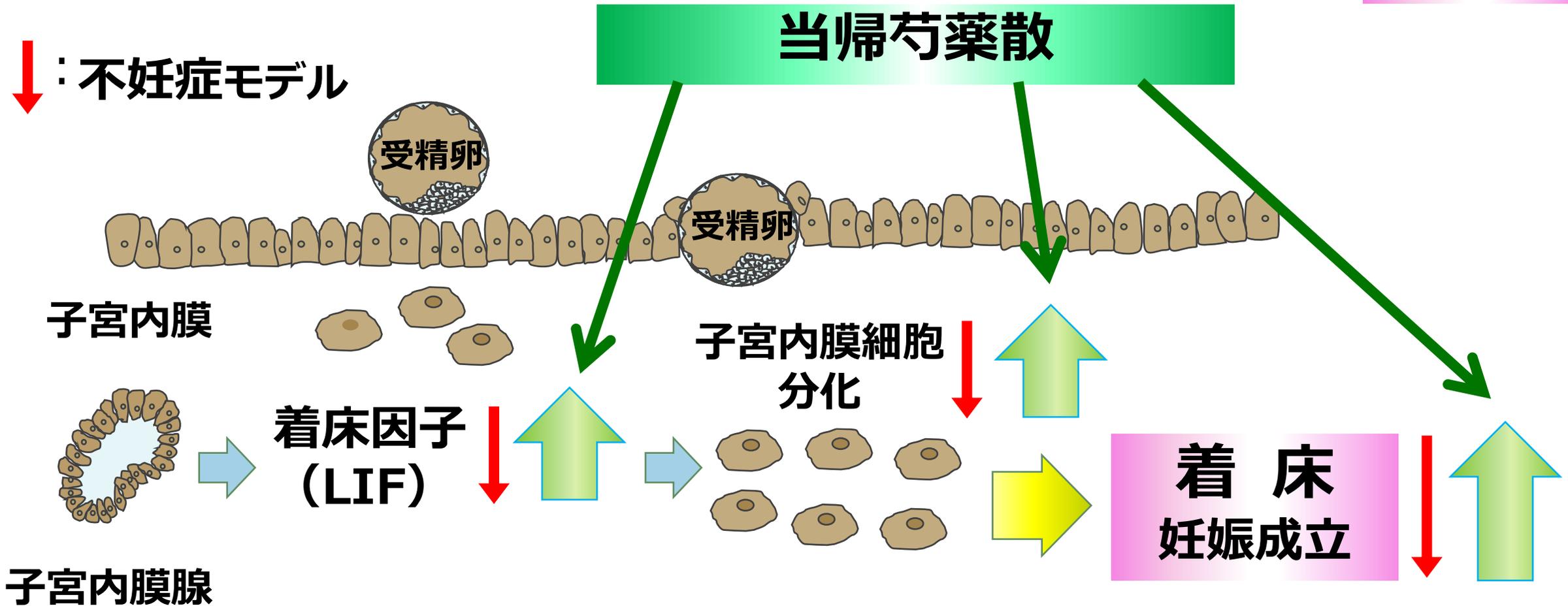
追跡期間中の出生率比較：P = 0.0003
log-rank test

医療ビッグデータによる検討では、当帰芍薬散をはじめとする漢方処方が
不育症女性の出生率の改善に寄与する可能性が示唆された

ラット不妊症モデルに対する当帰芍薬散の改善作用機序

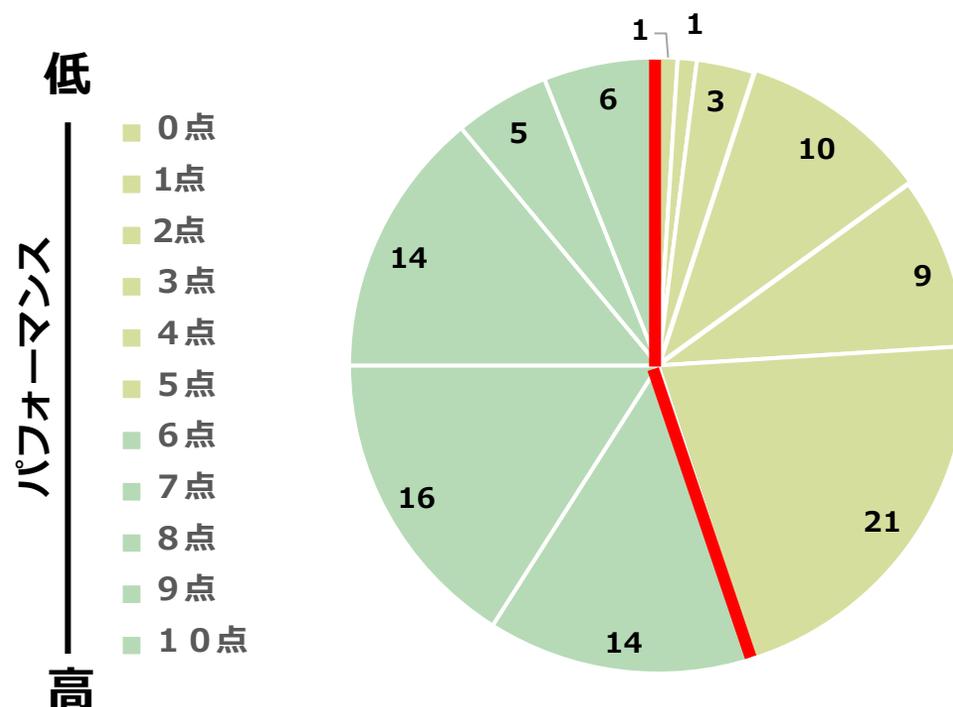
1. 接着 2. 浸潤 3. 子宮内膜分化

妊娠



月経前症候群や月経随伴症状により、元気な状態と比較して 仕事のパフォーマンスが半分以下になる人が約半数

半分以下のパフォーマンスの割合45%

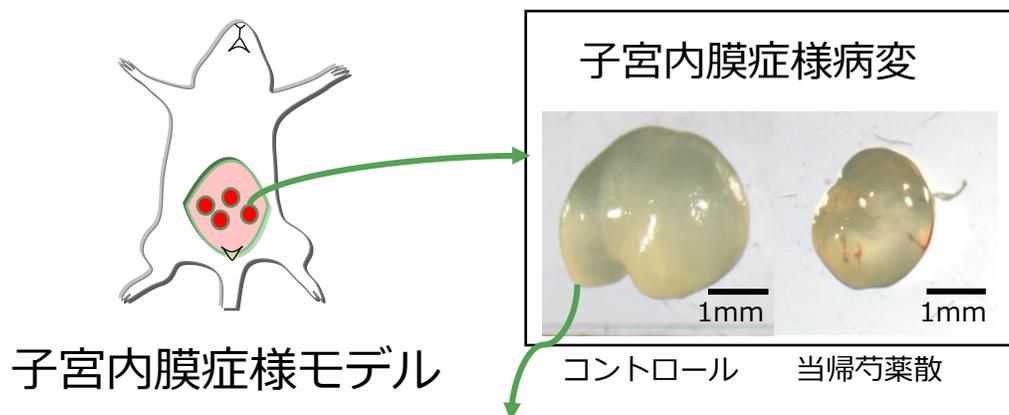


元気な状態の仕事の出来を10点とした場合の、
月経前症候群や月経随伴症状を有する時の自己評価 (n=2000)

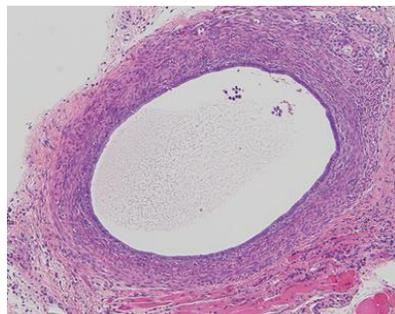
当帰芍薬散の子宮内膜症様モデルに対する病変部と痛みへの作用

★2018-2019でダウンロード数が上位10%論文に選出

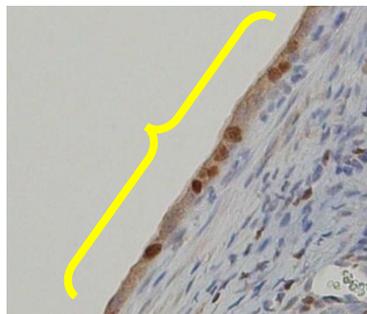
子宮内膜症様病変部の抑制



病変増悪因子（インターロイキン33）

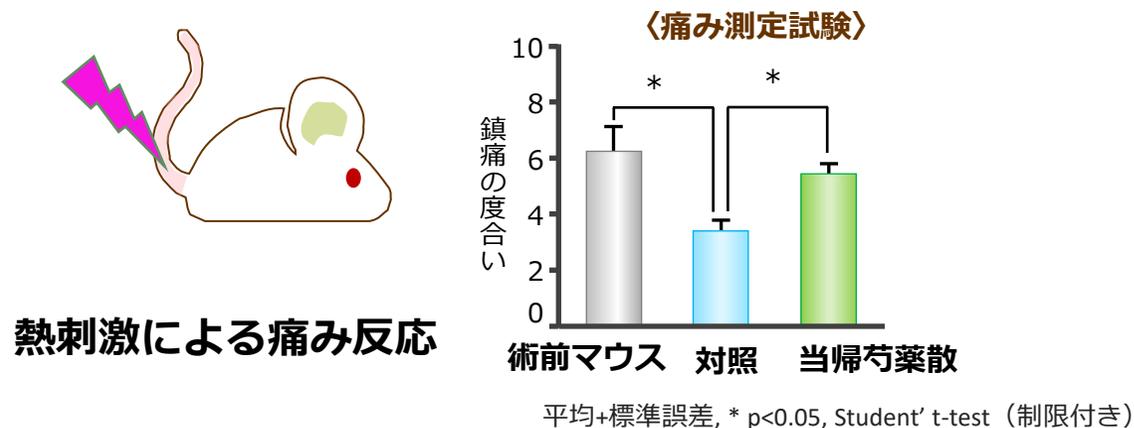


病理所見



嚢胞上皮のインターロイキン33

痛みの軽減

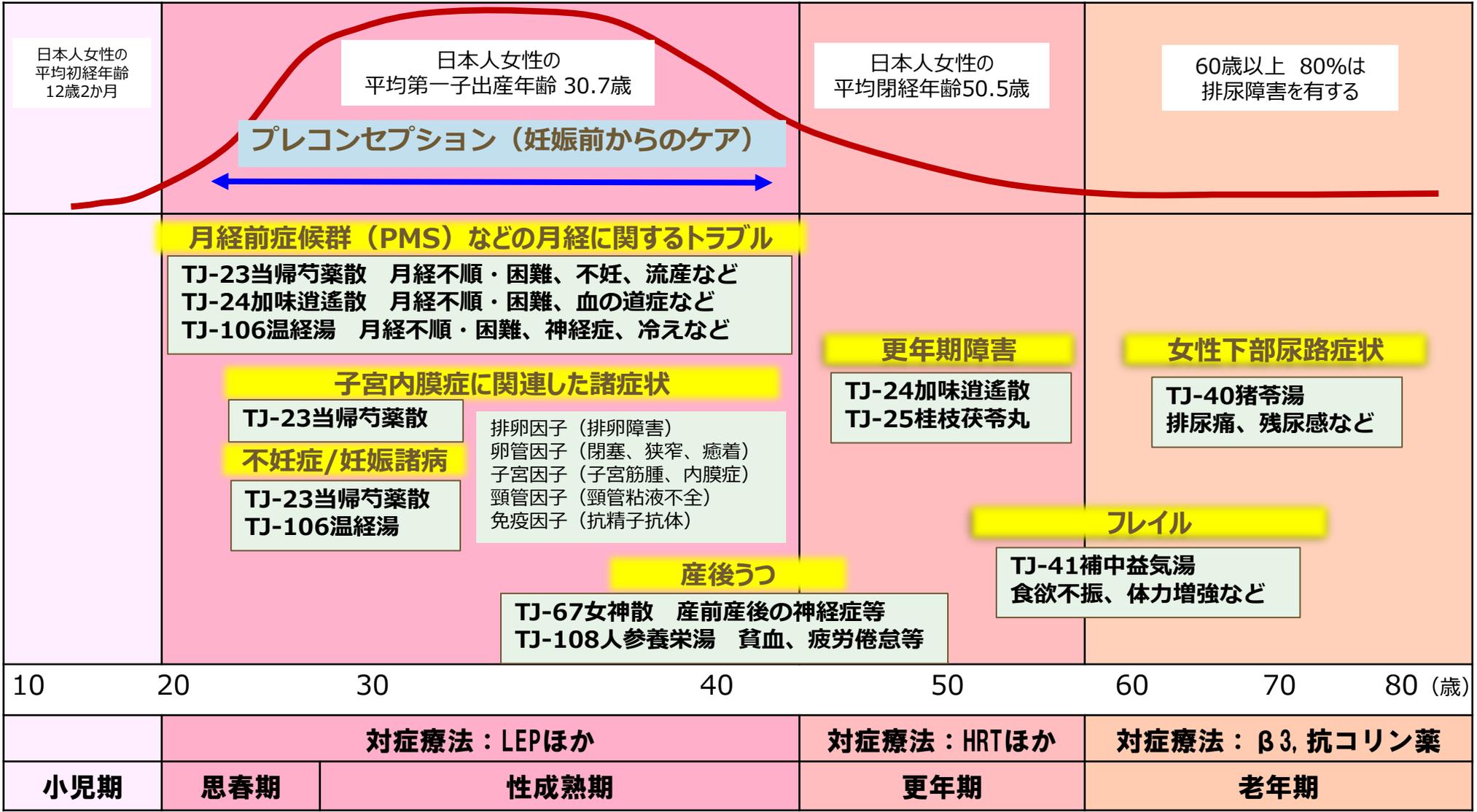


当帰芍薬散の作用機序

- 病変増悪因子への作用
インターロイキン33mRNAの抑制
- 痛みのもとへの作用
シクロオキシゲナーゼ2 mRNAの抑制

多い ↑
エストロゲンの分泌量
↓
少ない

起こりやすい
病態・疾患



01

当社における女性領域の取り組み（創業の原点）
と外部環境変遷の確認

02

標準治療の「更なる」基盤構築
これまでの研究成果と研究パイプライン

03

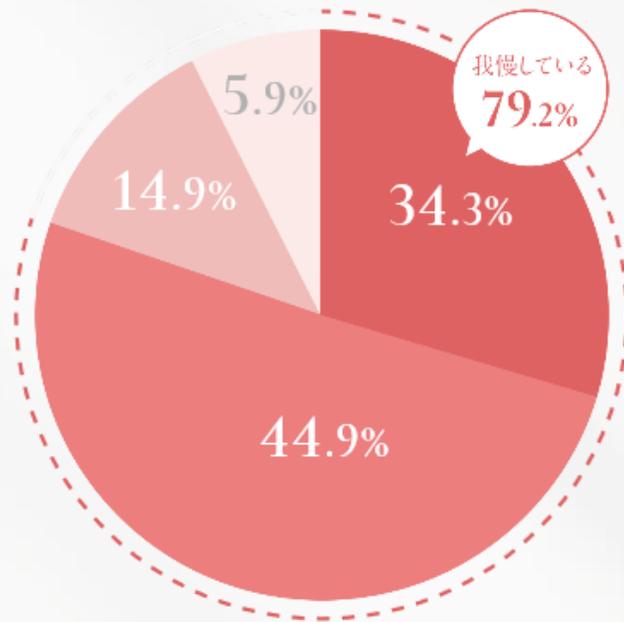
新たな治療手段の提案（個別化医療への取り組み）
未病領域への挑戦



隠れ我慢調査※1

日本全国の20代~50代の女性10,000人に「隠れ我慢」の実態を調査しました。
(2021年1月実施)

不調を我慢して
仕事や家事をすることがある



■ 頻繁にある ■ 時々ある
■ ほとんどない ■ 全くない
 全体 (n=10,000)

普段感じる不調TOP10（複数回答）

全体 (n=1,000)	
1位	疲れ・だるさ 66.0
2位	冷え 48.6
3位	イライラ感 46.4
4位	肌荒れ（にきび・しっしん等）・しみ 41.5
5位	頭痛 40.9
6位	不安感 40.0
7位	PMS※2 39.1
8位	腰痛 37.9
9位	寝つきにくい・目覚めが悪い・眠りが浅い・不眠 37.9
10位	生理痛・生理不順・生理前後の腹痛 37.6

※1：隠れ我慢に関する実態調査（2021年3月3日、当社実施）
<https://www.tsumura.co.jp/newsroom/topics/2021/03031750.html>

※2：生理周期によって生じる体調不良（イライラ、倦怠感、頭痛など）

第1期中期経営計画（2022～2024）

第2期中期経営計画（2025～2027）

第3期中期経営計画（2028～2031）

研究フェーズ

開発フェーズ

社会実装

問診システムの開発 （虚実・寒熱・気血水）

漢方で治したい症状を1つ選び、症状の程度を目盛で表してください。

頭（首から上）	
眠れない	
気分が憂鬱になる	
ものを忘れる	
イライラする	
頭痛	
視力低下・目が疲れる・かすむ・	
しょぼしょぼする	
のぼせや顔のほてり	
アレルギー性鼻炎・花粉症	
耳鳴り	
抜け毛・白髪	
にきび	
全身	
疲れやすい・だるい・体が重い	
皮膚がガサガサする	
皮膚がかゆい	
汗をかきやすい	
身体のこり	
身体の冷え	
身体のむくみ	



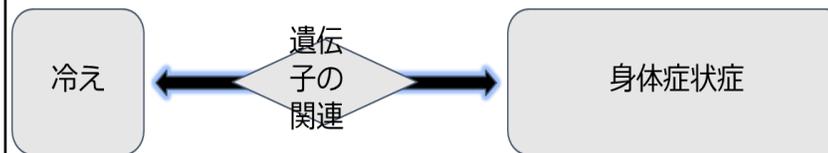
漢方自動問診

胸	
ぜんそくの症状	
咳	
上腹部	
お腹がはる・ガスがよく出る	
みずおちの痛み	
胸焼け・げっぷ	
食欲不振・胃もたれ	
下腹部	
頻尿	
便秘	
下痢	
脚	
足腰膝など下半身の痛み	
足がつかる	

診療データの拡充・予測精度の向上へ

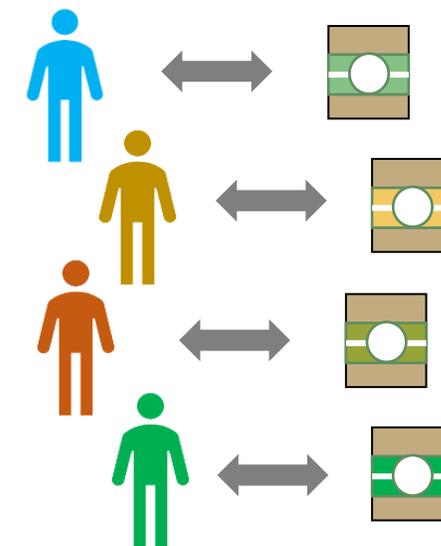
個別化医療のための冷えなどを 軸とした多面的な研究

遺伝的背景と冷えの機序 ならびに相関性の解明研究

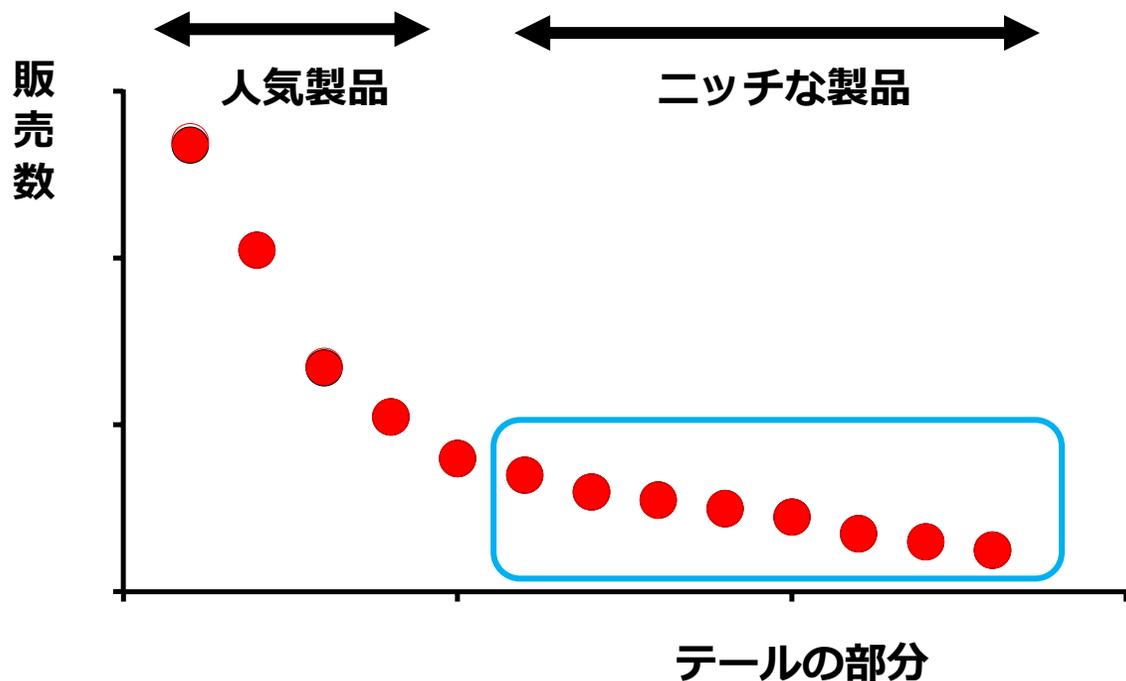


※遺伝子検査+血流・腸内細菌

処方選択の バリデーション試験

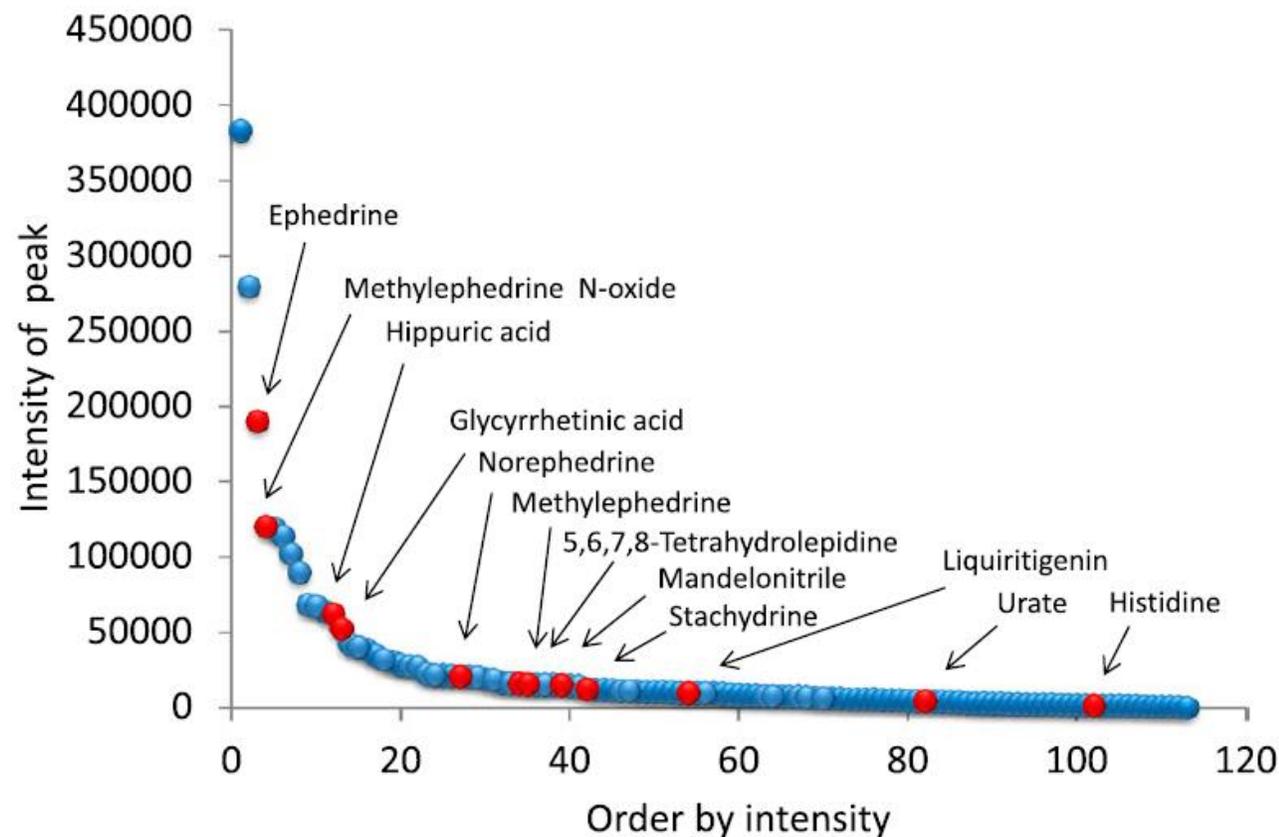


テール部分を積算すると相当な数になる…



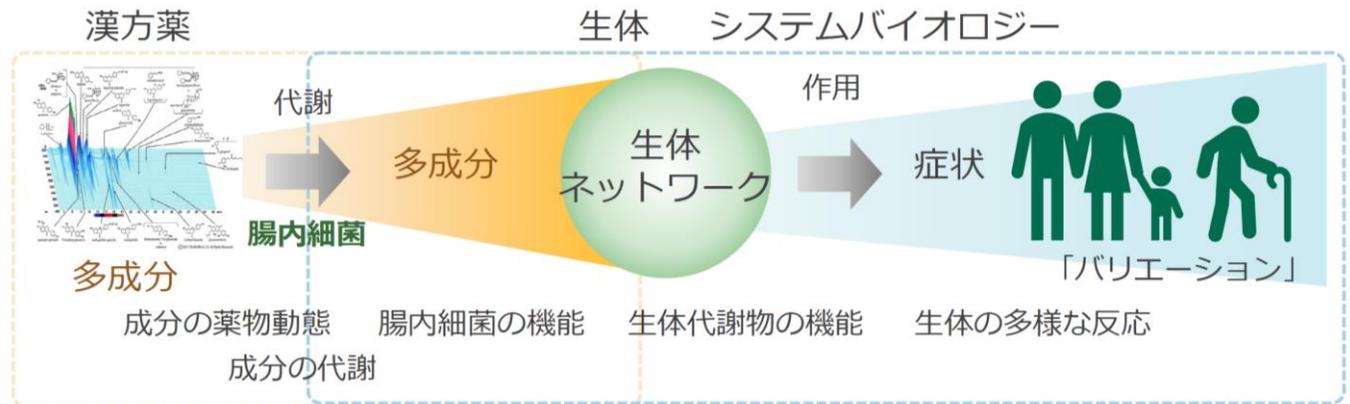
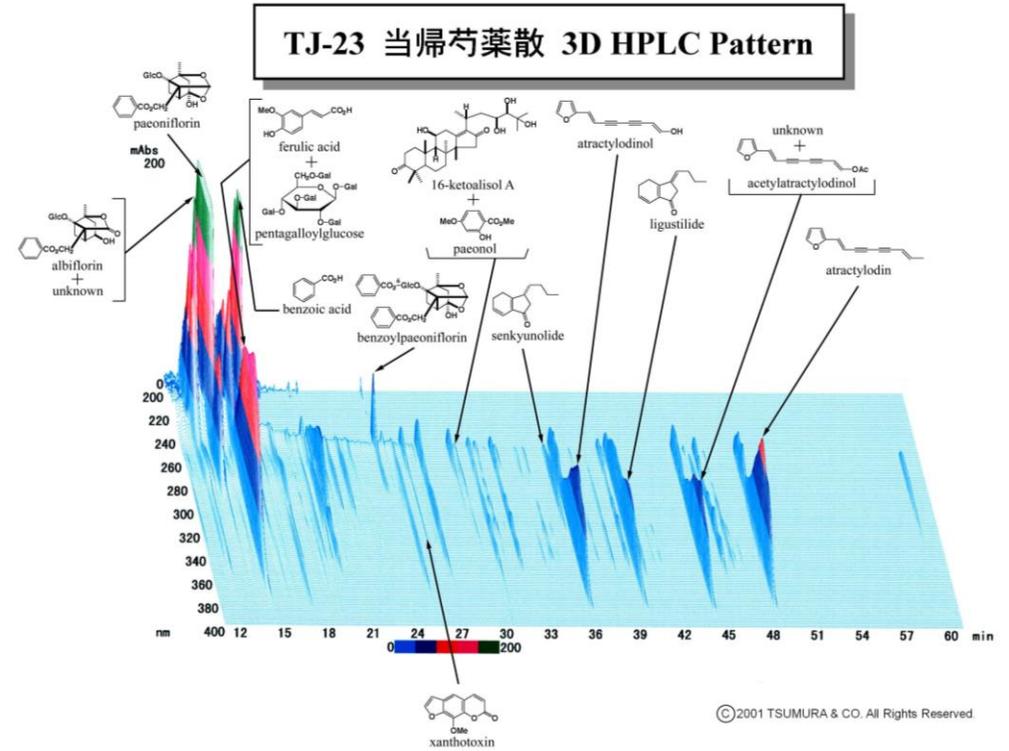
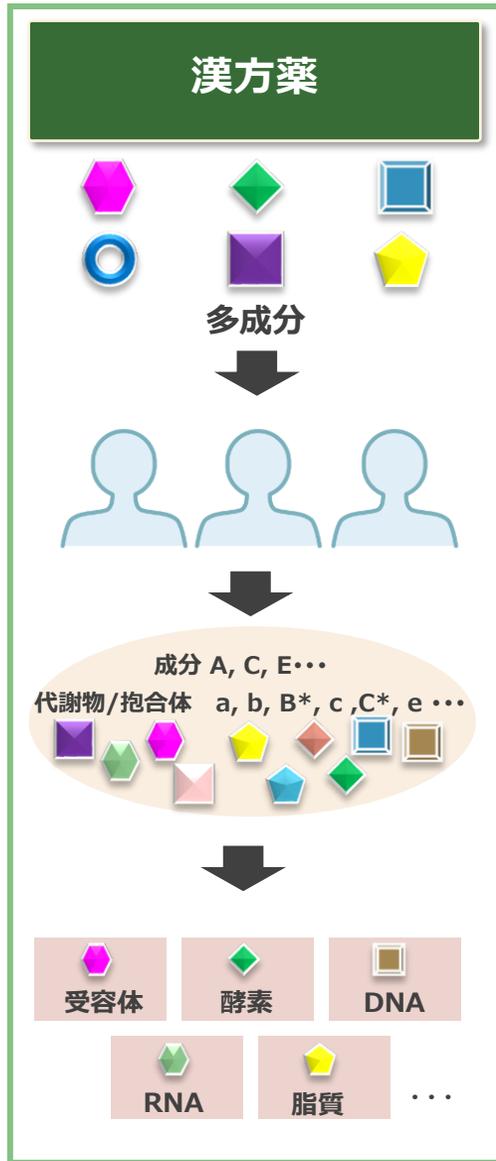
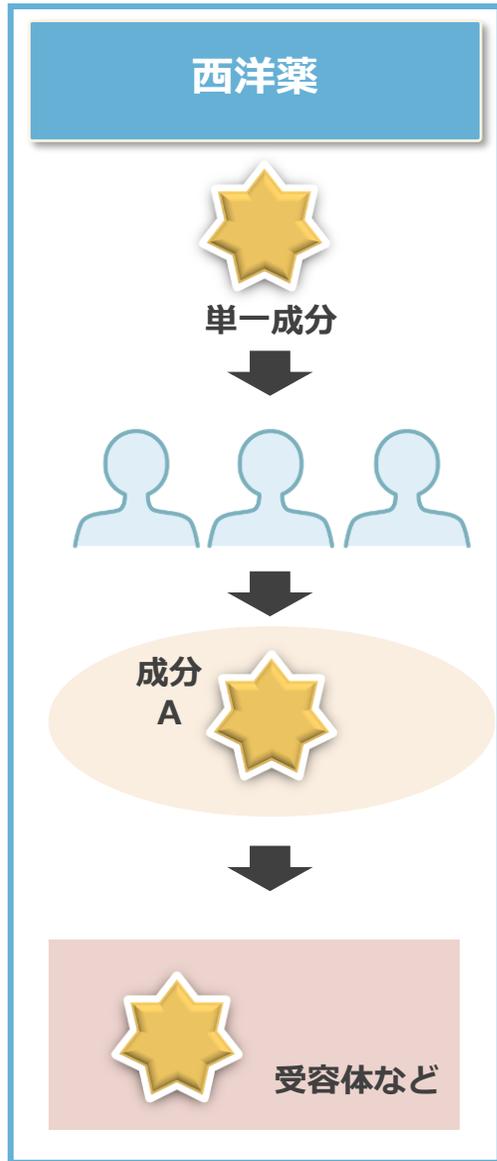
〈参考〉
全方位型の製品ラインナップを強みとするビジネスモデル

漢方薬投与後の血漿中特異的検出成分プロファイル



● 推定成分 ● 未同定成分

NPJ Syst Biol Appl. 2017,3,32.のデータに基づき当社で図作成



コーポレート・コミュニケーション室

I R 推進グループ

investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

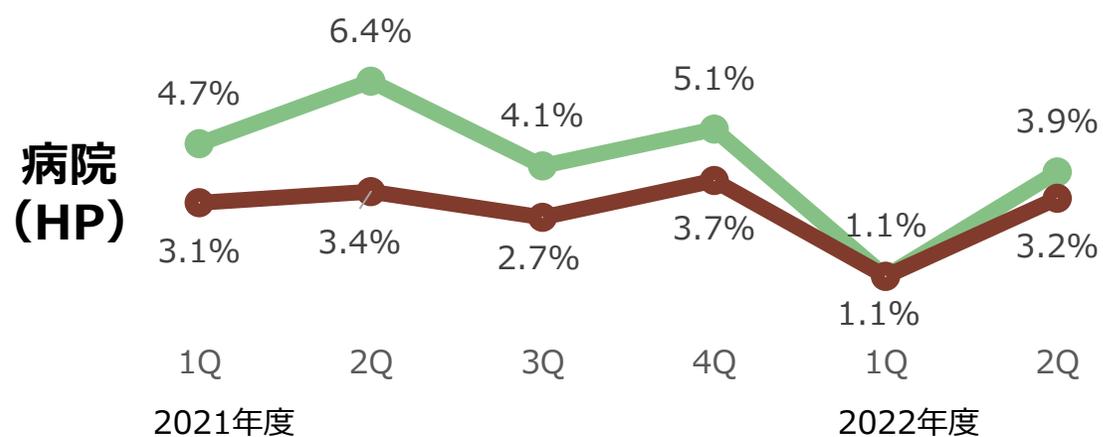
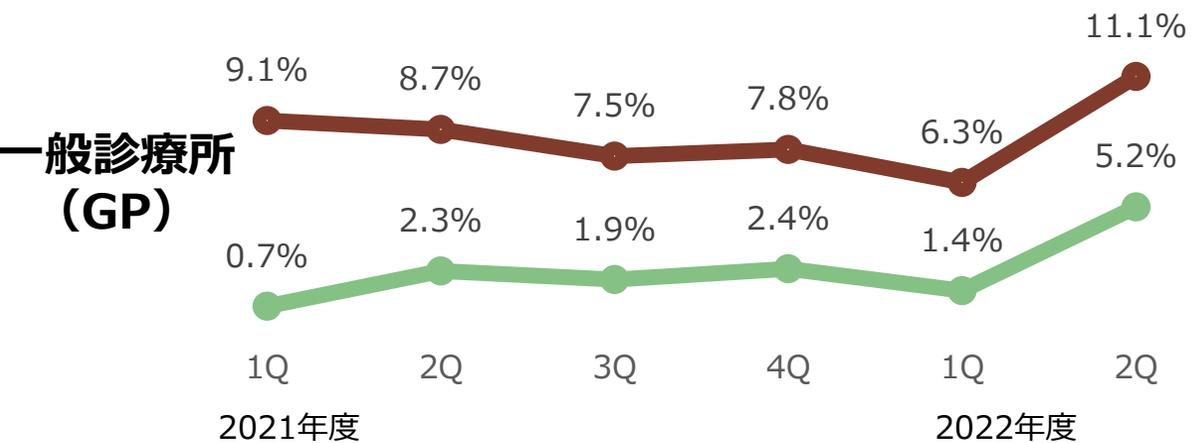
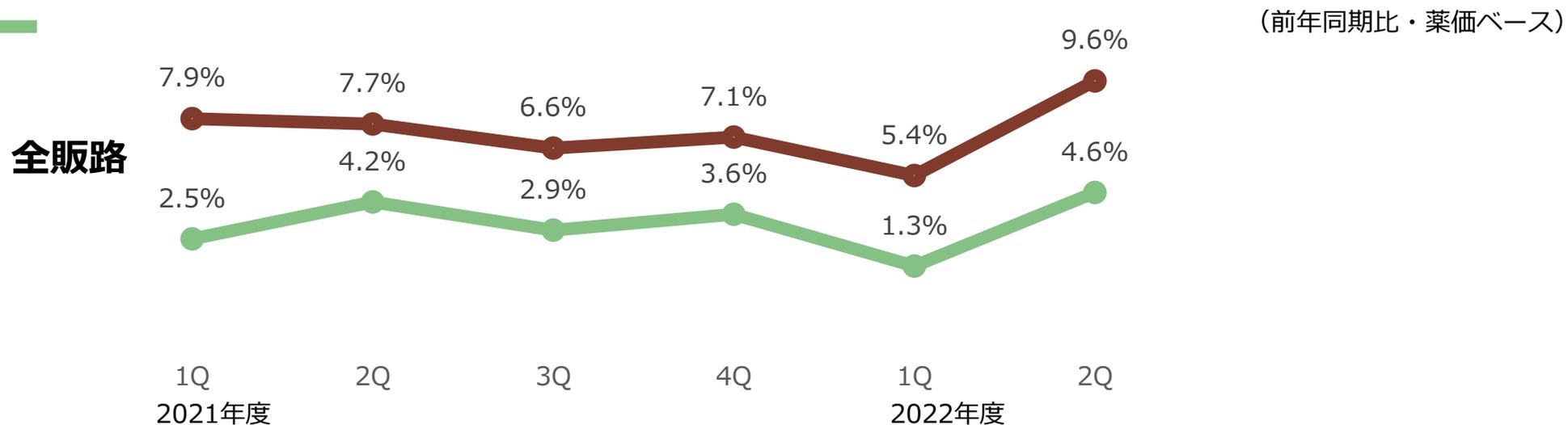
見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制の変更や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少したりした場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

Appendix

医療用医薬品市場との比較

ツムラ
医療用医薬品全体



(出荷数量ベース：伸長率)

✓ 生活環境変化により増加 →

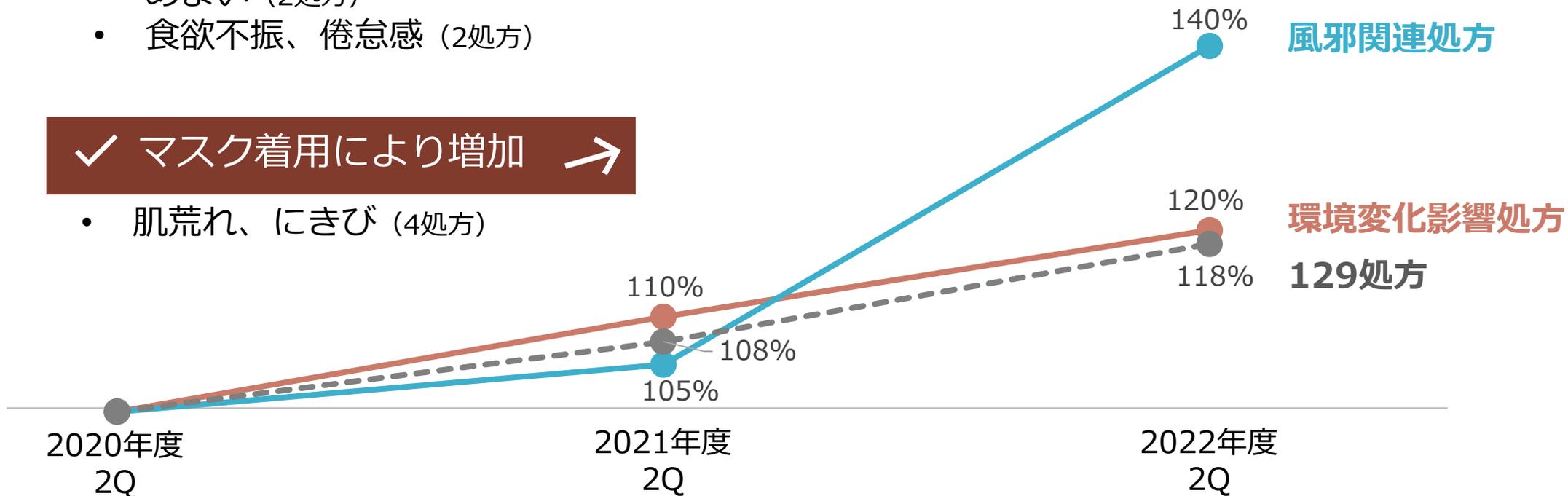
- 不安感、不眠 (6処方)
- めまい (2処方)
- 食欲不振、倦怠感 (2処方)

✓ オミクロン株の流行により増加 ↗

- 風邪、インフルエンザ、花粉症 (13処方)

✓ マスク着用により増加 →

- 肌荒れ、にきび (4処方)



10処方以上を処方する医師は約1万人増加し、割合は29%に達する

10処方以上を処方する医師数の推移

